

第 1 章 観光を取り巻く環境の変化

第1章 観光を取り巻く環境の変化

1 国の観光動向

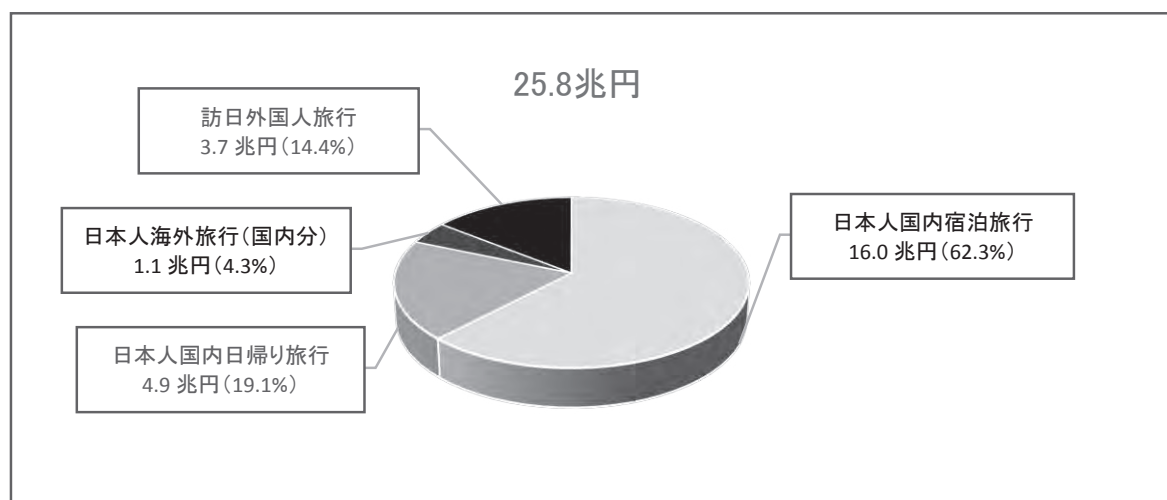
(1) 観光の経済的な影響力

観光は、「裾野の広い産業」と言われ、旅行業、宿泊業、飲食業、小売業、交通サービス業、さらには農林水産業等にも影響を及ぼす、地域への経済波及効果が高い総合産業である。また、訪日外国人の増加等により、今後、成長が見込める産業分野として期待が高まっている。

我が国の平成28年(2016年)の旅行消費額は、25.8兆円となっており、前年よりも1.0兆円増加した。うち、日本人の旅行(宿泊+日帰り)の消費額は20.9兆円で全体の81.3%を占める。

一方で、訪日外国人旅行の消費額は3.7兆円と全体の14.5%を占めるまでになった。日本人の国内旅行消費が横ばいとなるなか、訪日外国人による旅行消費が拡大している。

図表1 平成28年の国内旅行消費額



出所：観光庁「旅行・観光消費動向調査（平成28年確報）」

図表2 国内旅行消費額の推移

(単位：兆円)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
日本人国内宿泊旅行	15.4	14.8	15.0	15.4	13.9	15.8	16.0
日本人国内日帰り旅行	5.1	5.0	4.4	4.8	4.5	4.6	4.9
日本人海外旅行（国内分）	1.1	1.2	1.3	1.2	1.1	1.0	1.1
訪日外国人旅行	1.1	0.8	1.1	1.4	2.0	3.5	3.7
合計	22.7	21.8	21.8	22.8	21.6	24.8	25.8

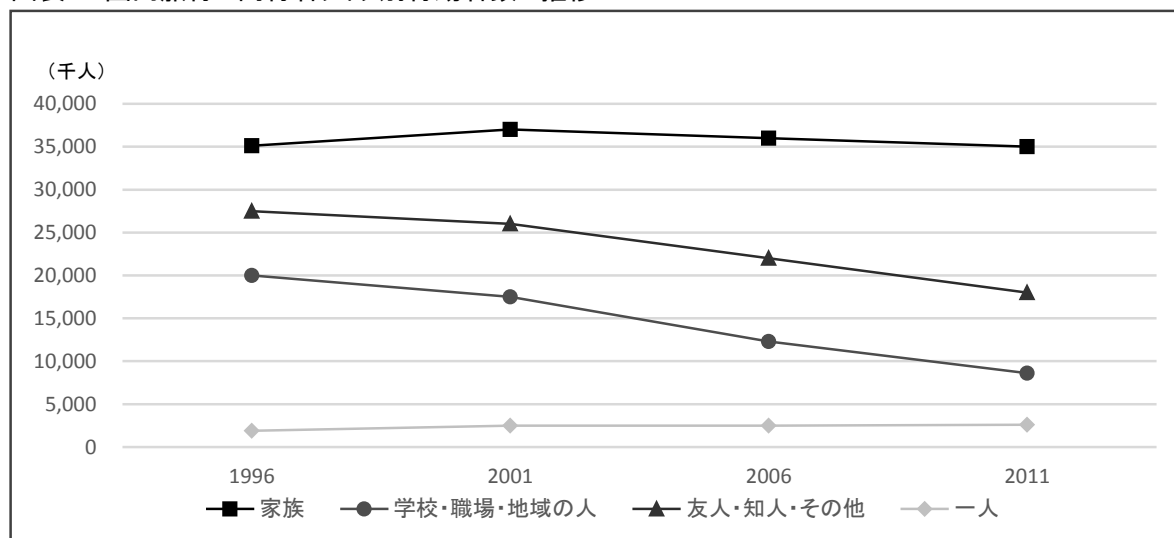
出所：観光庁「旅行・観光消費動向調査（平成28年確報）」

(2) 旅行スタイルの変化

観光庁の「観光白書（平成 29 年版）」によると、国内旅行の同行者は「学校・職場・地域の人」等の団体旅行が著しく減少しており、平成 8 年（1996 年）に約 2,000 万人であったが、平成 23 年（2011 年）には約 850 万人まで減少した。

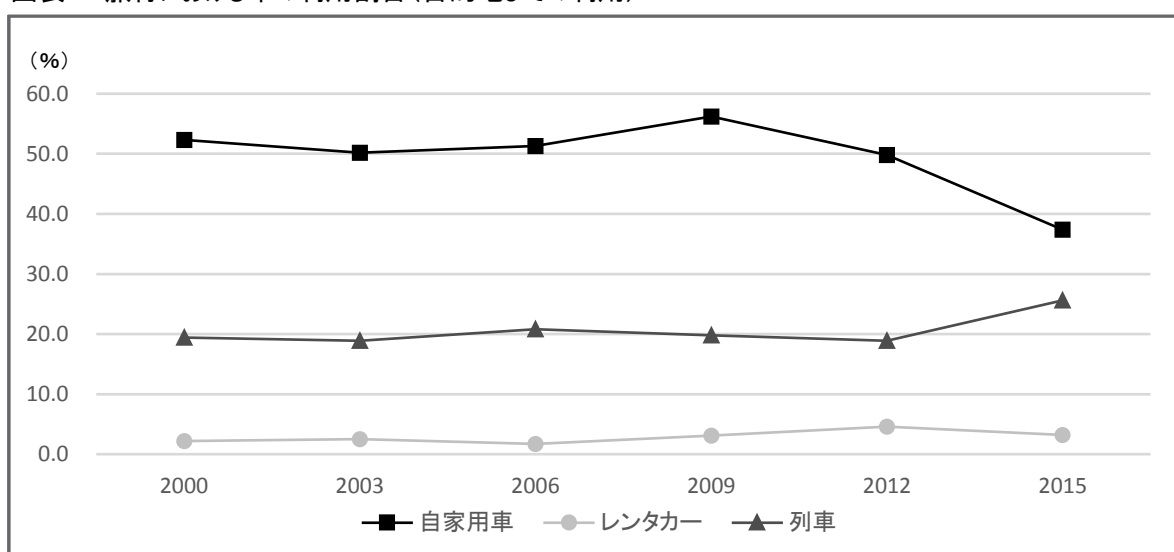
また、旅行における交通手段は、平成 21 年（2009 年）の調査までは、自家用車の利用割合が 50%を超えていたが、近年では、自家用車の利用割合が低下し、平成 27 年（2015 年）には 40%を下回っている。一方で、旅行における列車の利用割合は増加傾向にあり、同年には 25%を上回った。その背景には 20～30 代の若年層の車離れがあるものと考えられる。

図表 3 国内旅行の同行者タイプ別行動者数の推移



出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

図表 4 旅行における車の利用割合（目的地までの利用）

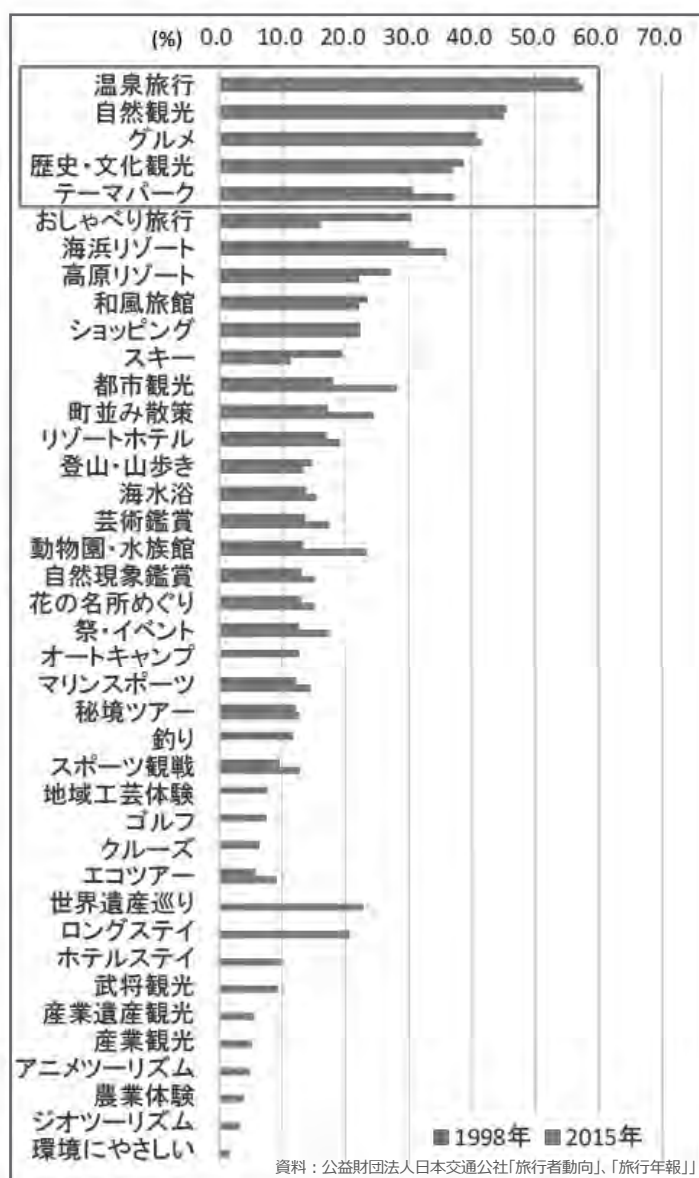


出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

(3) 国内旅行ニーズの多様化

希望する国内旅行の種類について、平成 10 年（1998 年）と平成 27 年（2015 年）の調査を比較すると、旅行ニーズの上位は「温泉旅行」「自然観光」「グルメ」「歴史・文化観光」「テーマパーク」とあまり変化がない。しかし、5 位以降のコンテンツを見ると、30 項目中 22 項目で関心が上昇または横ばいとなっており、旅行ニーズは多様化している。「都市観光」「町並み散策」「動物園・水族館」「世界遺産巡り」について関心が高まってきているが、中でも「町並み散策」については、観光地での滞在の仕方を工夫することで、観光客の満足度の向上につながる可能性が高いと考えられる。

図表 5 希望する国内旅行の種類の比較(1998 年・2015 年)



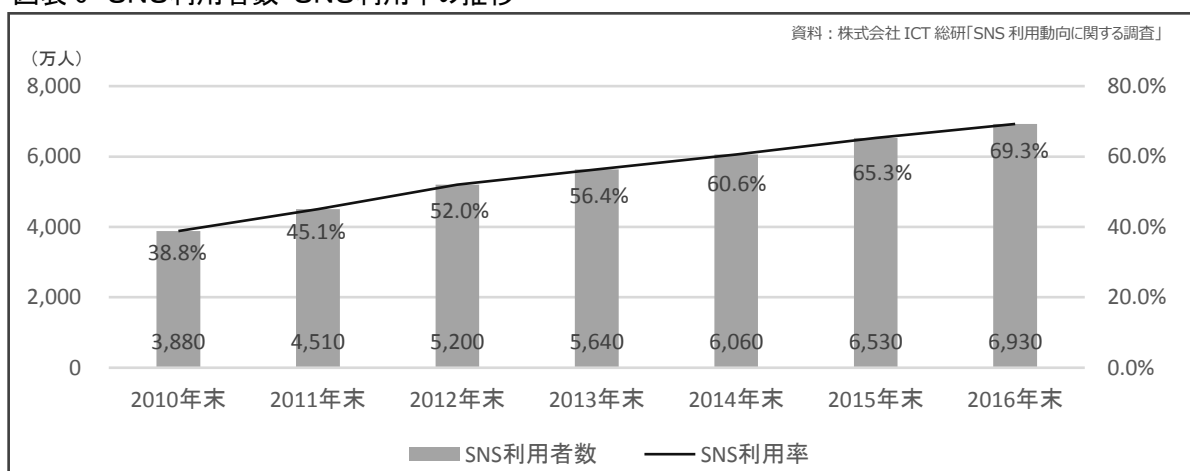
出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

(4) SNSが旅行に与える影響

スマートフォンの登場により、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用が急速に進んでいる。総務省の「平成 26 年通信利用動向調査」によれば、全世帯の 64% 以上がスマートフォンを所有しており、スマートフォンの普及にあわせて SNS 利用率も伸びている。平成 22 年（2010 年）末に 38.8% であった SNS 利用率は、平成 28 年（2016 年）末には 69.3% となった。

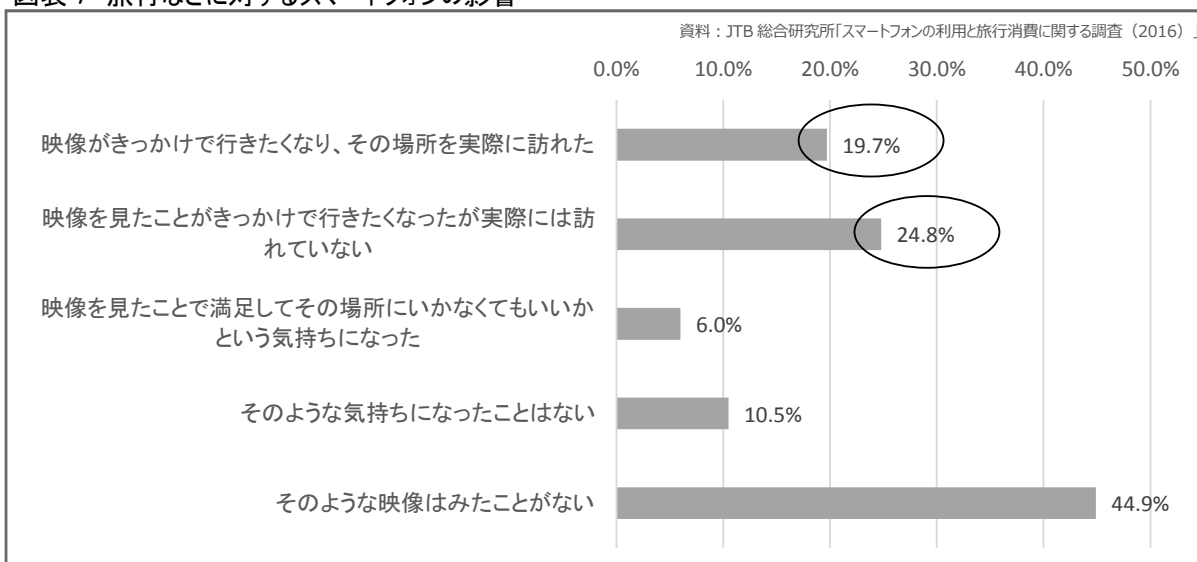
また、JTB 総合研究所の「スマートフォンの利用と旅行消費に関する調査（2016 年）」によると、SNS などを通じて閲覧した映像がきっかけに、実際の旅行につながった人は 19.7% と、旅行へ与える影響が大きいことがわかる。

図表 6 SNS利用者数・SNS利用率の推移



出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

図表 7 旅行などに対するスマートフォンの影響

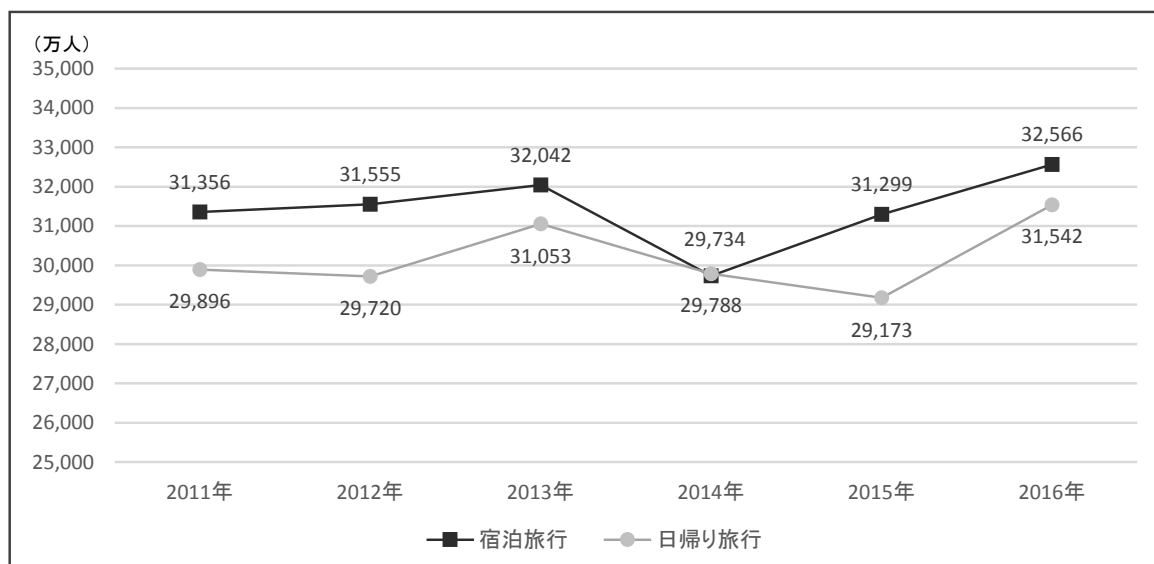


出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

（５）旅行者数の動向

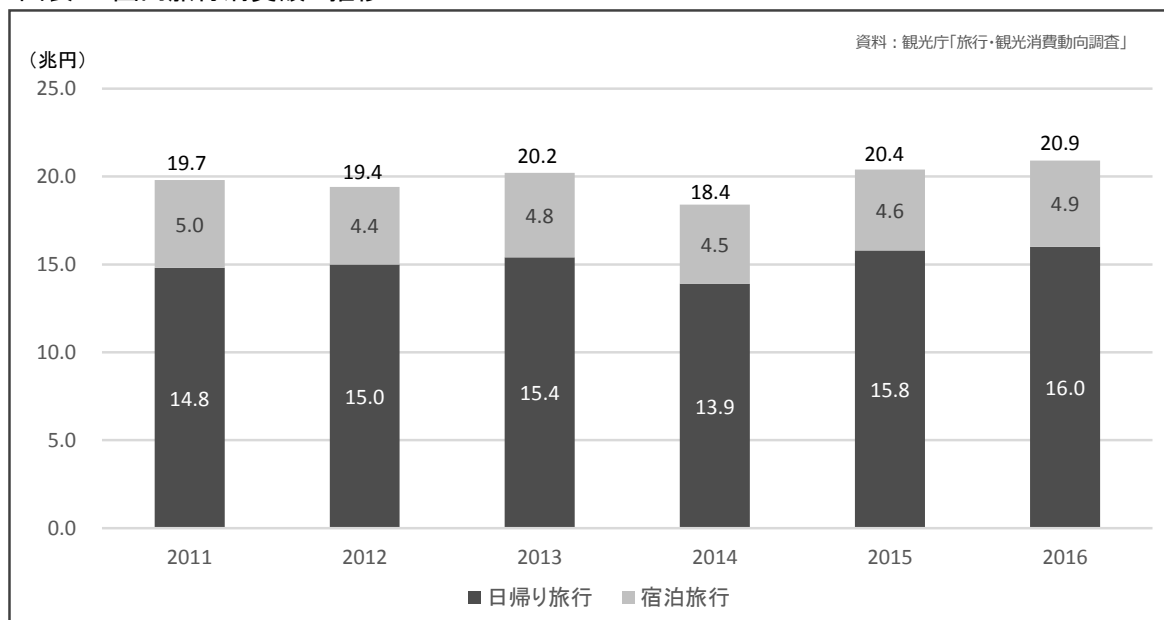
平成 28 年（2016 年）に国内宿泊旅行に行った人数は延べ 3 億 2,566 万人（前年比 4.0% 増）、国内日帰り旅行は延べ 3 億 1,542 万人（前年比 8.1% 増）となっており、国内旅行消費額は 20.9 兆円（前年比 2.4% 増）となっている。

図表 8 国内宿泊旅行延べ人数、国内日帰り旅行延べ人数の推移



出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

図表 9 国内旅行消費額の推移



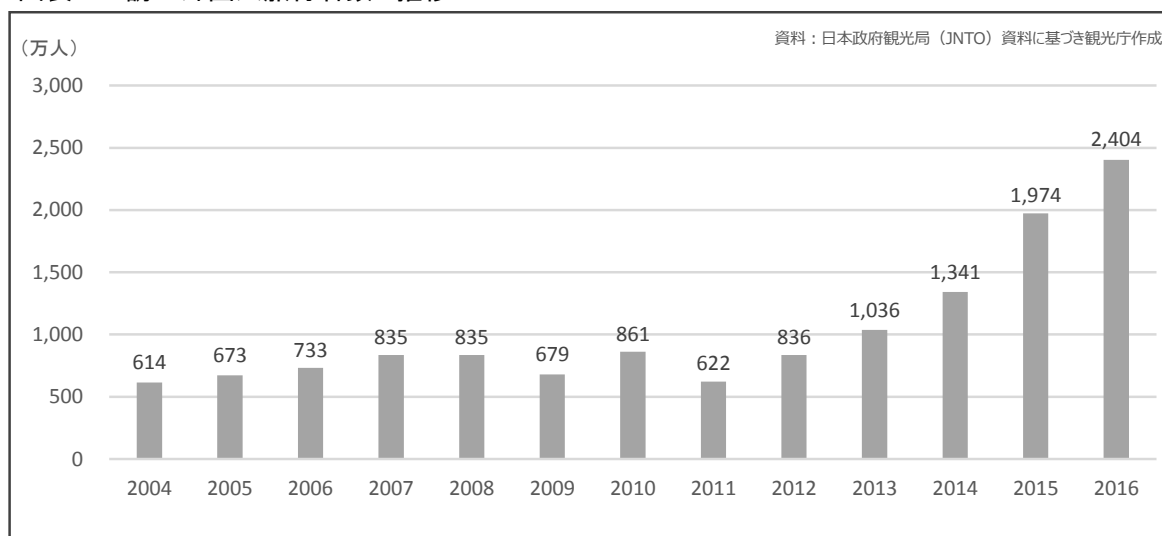
出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」
※日本人の国内旅行のみを計上

（６）訪日外国人旅行者（インバウンド）の動向

一方で、平成 28 年（2016 年）の訪日外国人旅行者数は、2,404 万人（対前年度比 21.8% 増）となり、過去最高であった平成 27 年（2015 年）の 1,974 万人を大幅に上回り、4 年連続で過去最高を更新した。訪日外国人旅行者は、東日本大震災のあった平成 23 年（2011 年）以降、急激に増加し、平成 27 年（2015 年）には訪日外国人旅行者（インバウンド：1,974 万人）と出国日本人（アウトバウンド：1,621 万人）の数が逆転した。

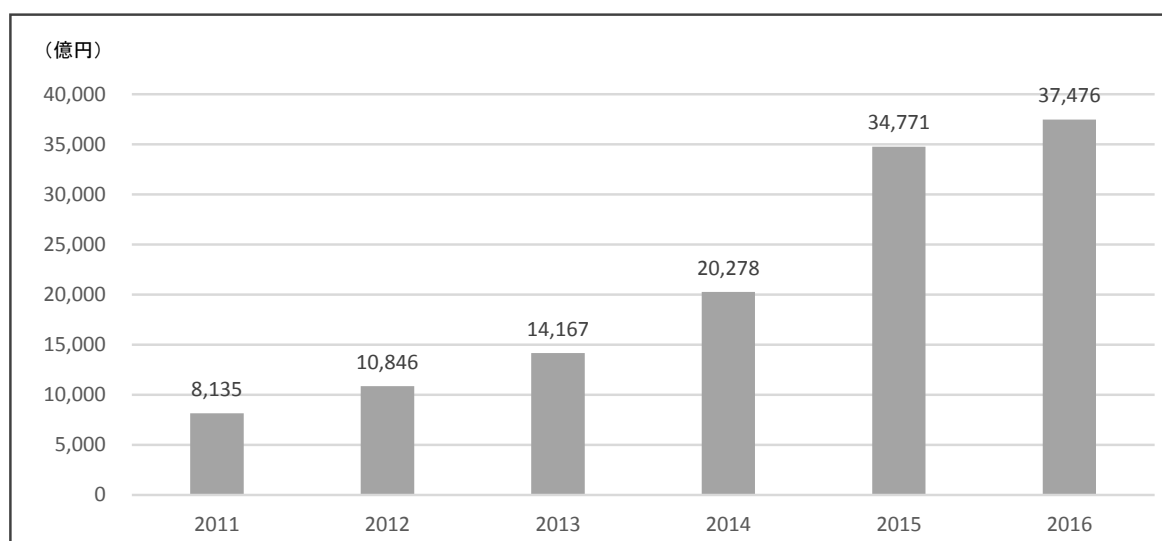
また、訪日外国人旅行者による日本国内における消費額についても、平成 23 年（2011 年）以降、拡大を続け、平成 28 年（2016 年）には 3.7 兆円に達した。

図表 10 訪日外国人旅行者数の推移



出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

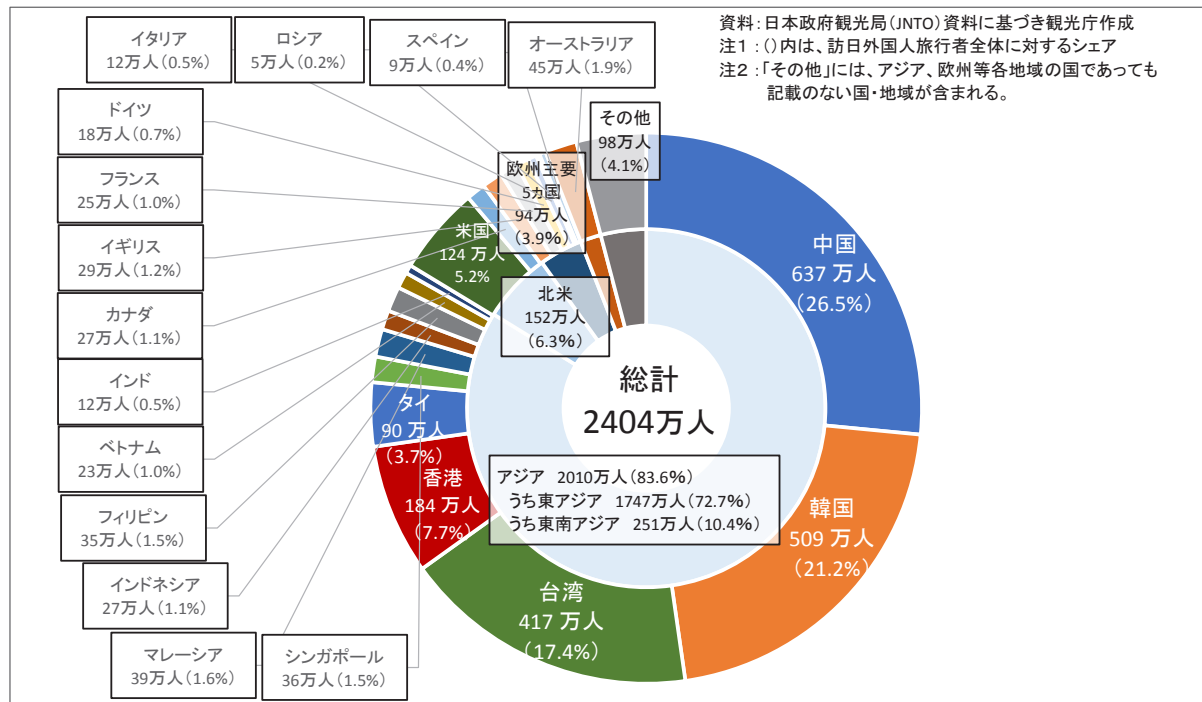
図表 11 訪日外国人旅行者による消費の推移



出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

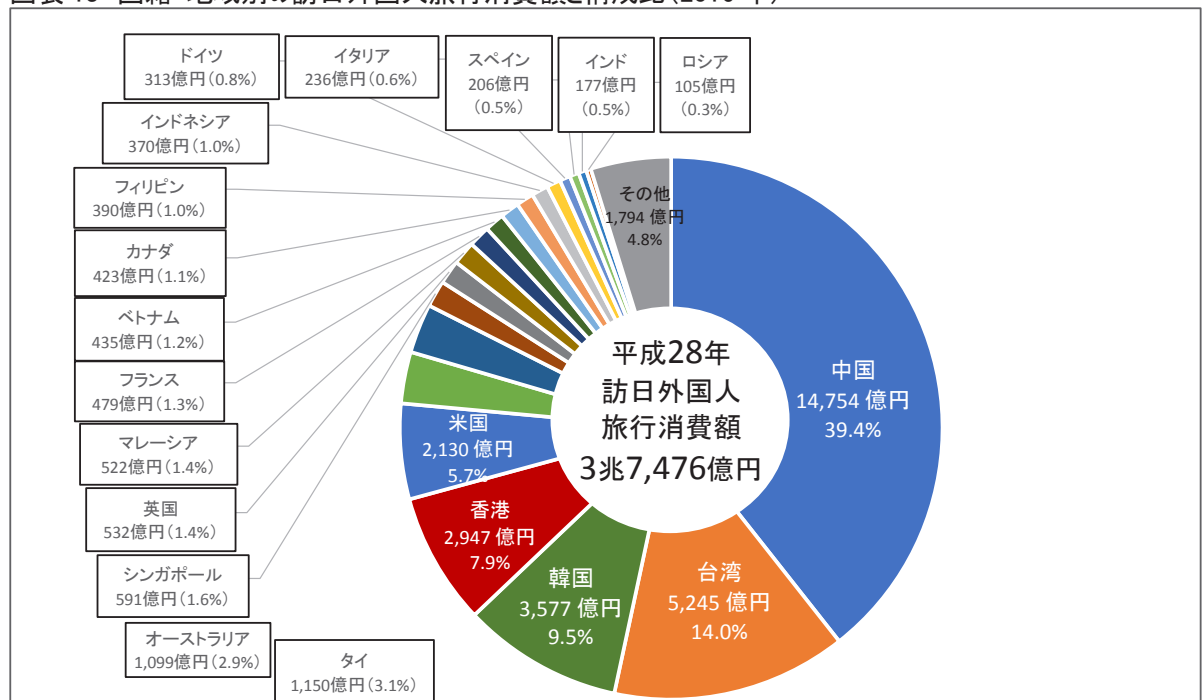
このような状況の下で、主要 20 市場のうち、ロシアを除く 19 市場が年間での過去最高を記録した。平成 28 年（2016 年）のアジアからの訪日外国人旅行者は、2,010 万人に達し全体の 83.6%を占める。同年、中国は 600 万人、韓国は 500 万人、台湾は 400 万人をはじめて超えた。消費額で見ると中国が 1 兆 4,754 億円となり、全体の 39.4%を占めている。

図表 12 訪日外国人旅行者の内訳(2016 年)



出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

図表 13 国籍・地域別の訪日外国人旅行消費額と構成比(2016 年)



出所：観光庁「観光白書（平成 29 年）」

(7) 国の観光ビジョン～明日の日本を支える観光ビジョン～

国は、「観光先進国」への新たな国づくりにむけて、「明日の日本を支える観光ビジョン」を平成 28 年（2016 年）3 月に策定した。その中で、これまでビザの緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワークの拡大など、大胆な改革を行った結果、平成 27 年（2015 年）の訪日外国人旅行者数は、約 2,000 万人となり、訪日外国人消費額は約 3.5 兆円となったことを報告している。

今後の具体的な方向性として「3 つの視点」と「10 の改革」を次のとおり示している。その上で、新たな目標として、「訪日外国人旅行者数を 2020 年に 4,000 万人、2030 年に 6,000 万人」とすることなどを新たな目標として掲げている。

図表 14 「明日の日本を支える観光ビジョン」における「3つの視点と10の改革」

視点 1 観光資源の魅力を極め、 地方創生の礎に	視点 2 観光産業を革新し、国際競争 力を高め、我が国の基幹産業に	視点 3 すべての旅行者が、ストレスなく 快適に観光を満喫できる環境に
■「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放 - 赤坂や京都の迎賓館などを大胆に公開・開放 ■「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ 2020 年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で 200 整備、わかりやすい多言語解説など 1000 事業を展開し、集中的に支援強化 ■「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ 2020 年を目標に、全国5箇所の公園について民間の力も活かし、体験・活用型の空間へと集中改善 ■おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ 2020 年を目途に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定	■古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ 60 年以上経過した規制・制度の抜本見直し、トップレベルの経営人材育成、民泊ルール整備、宿泊業の生産性向上など、総合パッケージで推進・支援 ■あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現 - 欧州・米国・豪州や富裕層などをターゲットにしたプロモーション、戦略的なビザ緩和などを実施 - MICE 誘致・開催の支援体制を抜本的に改善・首都圏におけるビジネスジェットの受入環境改善 ■疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化 2020 年までに、世界水準 DMO を全国 100 形成 - 観光地再生・活性化ファンド、規制緩和などを駆使し、民間の力を最大限活用した安定的・継続的な「観光まちづくり」を実現	■ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現 - 世界最高水準の技術活用により、出入国審査の風景を一変 - ストレスフリーな通信・交通利用環境を実現 - キャッシュレス観光を実現 ■「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現 「ジャパン・レールパス」を訪日後でも購入可能化 - 新幹線開業やコンセクション空港運営等と連動した、観光地へのアクセス交通充実の実現 ■「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現 2020 年までに、年次有給休暇取得率 70% へ向上 - 家族が休暇をとりやすい制度の導入

出所：観光庁「明日の日本を支える観光ビジョン」

図表 15 「明日の日本を支える観光ビジョン」における「施策集」

視点 1 観光資源の魅力を極め、 地方創生の礎に	視点 2 観光産業を革新し、国際競争 力を高め、我が国の基幹産業に	視点 3 すべての旅行者が、ストレスなく 快適に観光を満喫できる環境に
■ 魅力ある公的施設・インフラの 大胆な公開・開放 ■ 文化財の観光資源としての開 花 ■ 国立公園の「ナショナルパーク」 としてのブランド化 ■ 景観の優れた観光資産の保 全・活用による観光地の魅力 向上 ■ 滞在型農山漁村の確立・形 成 ■ 地方の商店街等における観光 需要の獲得・伝統工芸品等 の消費拡大 ■ 広域観光周遊ルートの世界 水準への改善 ■ 東北の観光復興	■ 観光関係の規制・制度の総 合的な見直し ■ 民泊サービスへの対応 ■ 産業界ニーズを踏まえた観光 経営人材の育成強化 ■ 宿泊施設不足の早急な解消 及び多様なニーズに合わせた 宿泊施設の提供 ■ 世界水準の DMO の形成・育 成 ■ 「観光地再生・活性化ファン ド」の継続的な展開 ■ 次世代の観光立国実現のた めの財源の検討 ■ 訪日プロモーションの戦略的 高度化 ■ インバウンド観光促進のため の多様な魅力の対外発信強化 ■ MICE 誘致の促進 ■ ビザの戦略的緩和 ■ 訪日教育旅行の活性化 ■ 観光教育の充実 ■ 若者のアウトバウンド活性化	■ 最先端技術を活用した革新 的な出入国審査等の実現 ■ 民間のまちづくり活動等によ る「観光・まち一体再生」の推 進 ■ キャッシュレス環境の飛躍的 改善 ■ 通信環境の飛躍的向上と誰も が一人歩きできる環境の実現 ■ 多言語対応による情報発信 ■ 急患等にも十分対応できる外 国人患者受入体制の充実 ■ 「世界一安全な国、日本」の 良好な治安等を体感できる 環境整備 ■ 「地方創生回廊」の完備 ■ 地方空港のゲートウェイ機能 強化と LCC 就航促進 ■ クルーズ船受入の更なる拡充 ■ 公共交通利用環境の革新 ■ 休暇改革 ■ オリパラに向けたユニバーサル デザインの推進

出所：観光庁「明日の日本を支える観光ビジョン」

図表 16 「明日の日本を支える観光ビジョン」における「新たな目標」

	2020 年	2030 年
訪日外国人旅行者数	4,000 万人 (2015 年の約 2 倍)	6,000 万人 (2015 年の約 3 倍)
訪日外国人旅行消費額	8 兆円 (2015 年の 2 倍超)	15 兆円 (2015 年の 4 倍超)
地方部での外国人延べ宿泊者数	7,000 万人泊 (2015 年の 3 倍弱)	1 億 3000 万人泊 (2015 年の 5 倍超)
外国人リピーター数	2,400 万人 (2015 年の約 2 倍)	3,600 万人 (2015 年の約 3 倍)
日本人国内旅行消費額	21 兆円 (最近 5 年間の平均から約 5%増)	22 兆円 (最近 5 年間の平均から約 10%増)

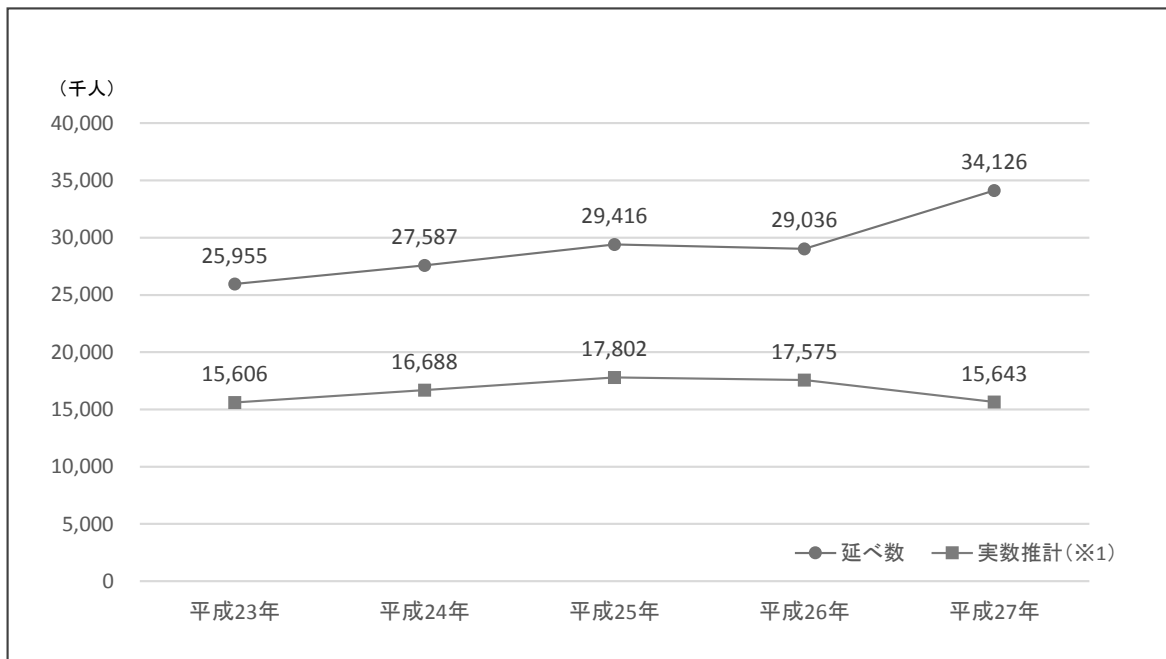
出所：明日の日本を支える観光ビジョン構想会議「明日の日本を支える観光ビジョン」

2 富山県の観光動向

(1) 富山県の観光客入込数の推移

富山県の観光客入込数は、平成 23 年（2011 年）の東日本大震災以降は回復基調にあり、平成 27 年（2015 年）には北陸新幹線開業効果等により 34,126 千人となり、前年比 17.5% の伸びとなった。なお、観光客入込数（延べ数）は同じ人が県内の複数の観光施設等を訪れていた場合、重複してカウントしてしまうため、富山県では別途「実数推計」を算出している。実数推計は 2 種類あり、観光庁共通基準による入込数（実数推計）※¹は 15,643 千人、従来の推計方法に基づく入込数（実数推計）※²は、20,308 千人となっている。

図表 17 富山県の観光客入込数



資料：富山県観光客入込数（推計）をもとに作成

※1 観光庁の共通基準による実数推計

- 共通基準に基づき、県内 11 箇所、延べ 3,600 人を対象に聞き取り調査
 - 県内居住者・県外居住者、宿泊客・日帰り客の各構成比や平均訪問地点数を算出
 - 観光庁「宿泊旅行統計調査」のデータも利用
- | | |
|--------------|--|
| 宿泊客 | 3,714 千人（県内 824 千人、県外 2,751 千人、外国人 139 千人） |
| 日帰り客 | 11,929 千人（県内 6,159 千人、県外 5,735 千人、外国人 35 千人） |
| H27 平均訪問地点数 | 県内居住日帰り客 1.17 箇所（H26 1.43 箇所） |
| | 県外居住日帰り客 1.26 箇所（H26 1.29 箇所） |
| H27 延べ入込数構成比 | 県内居住者 27.8%（宿泊客 3.4%、日帰り客 24.4%） |
| | 県外居住者 71.9%（宿泊客 47.8%、日帰り客 24.1%） |

※2 従来の推計方法による実数推計

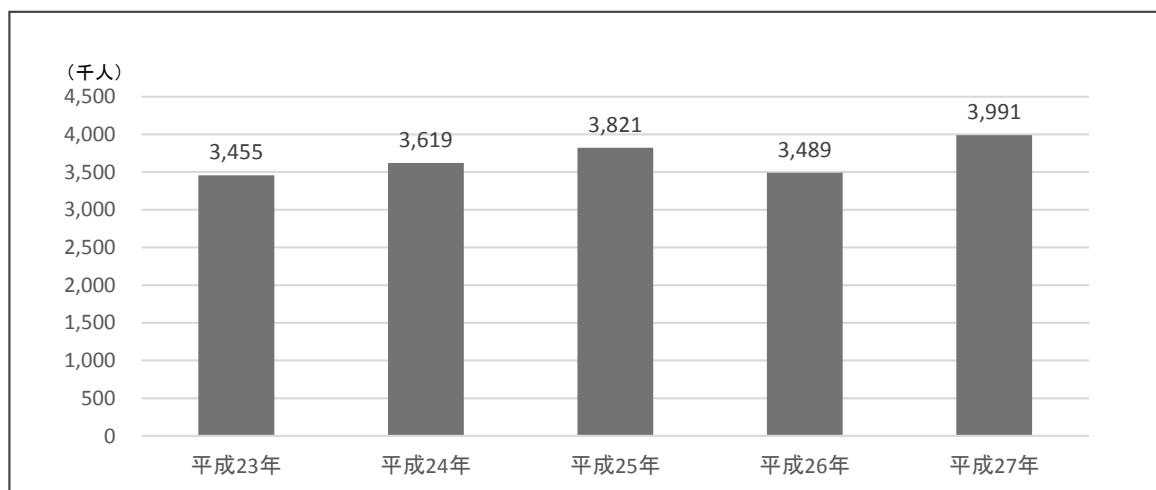
- H18 年度「富山県観光戦略基礎データ調査」に基づき実数推計
- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| 宿泊客 | 1,857 千人（県内 179 千人、県外 1,678 千人） |
| 日帰り客 | 18,451 千人（県内 14,897 千人、県外 3,554 千人） |
| 平均訪問地点数 | 県内居住者 1.5 箇所、県外居住者 2.2 箇所、宿泊客 2.3 箇所 |
| 宿泊客の構成比 | 県内居住者 9.6%、県外居住者 90.4% |
| H27 延べ入込数構成比 | 県内居住者 66.3%（宿泊客 1.2%、日帰り客 65.1%） |
| | 県外居住者 33.7%（宿泊客 11.3%、日帰り客 22.4%） |

出所：平成 27 年 富山県観光客入込数（推計）

（２）富山県の宿泊者数の推移

富山県の宿泊者数は、近年、おおむね横ばい傾向であり、平成 26 年（2014 年）は約 349 万人と集客期の悪天候等の影響により前年比 8.7%の減少であったが、北陸新幹線開業の平成 27 年（2015 年）には、前年比 14.3%の増加の 399 万人となった。

図表 18 富山県宿泊者数

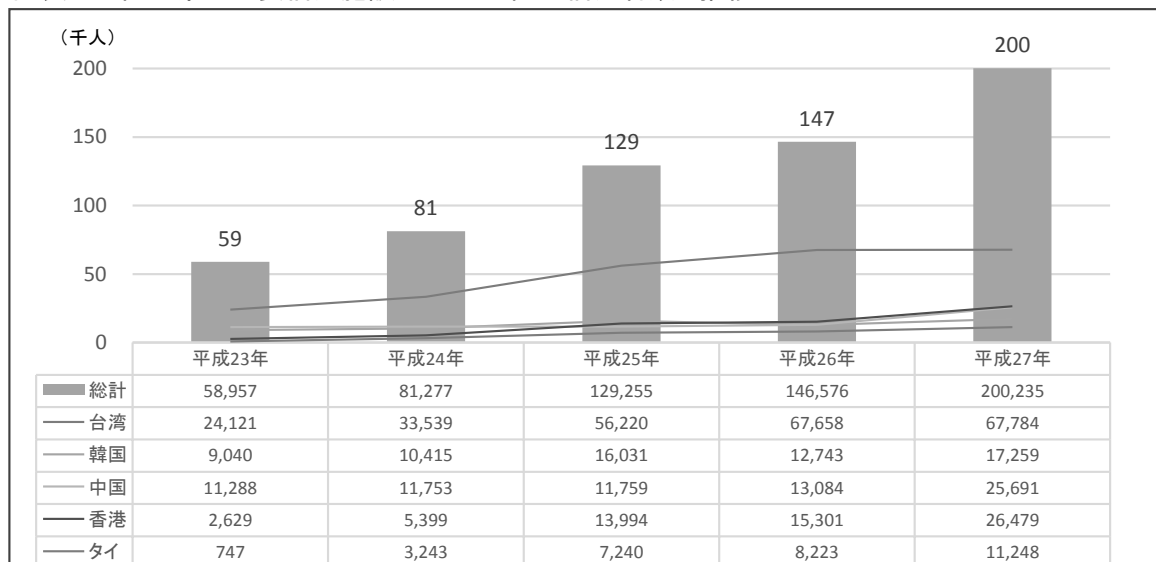


資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに作成
(注：従業員 10 人以上の事業所は全数調査、従業員 10 人未満は抽出調査で推計値を算出)

（３）富山県における訪日外国人旅行者（インバウンド）の動向

富山県の訪日外国人旅行者の動向は、富山ー台北便の就航・増便や東南アジア向け訪日ビザの免除・緩和などにより、好調に推移している。県内主要宿泊施設における外国人宿泊者数を見ると、平成 23 年（2011 年）は 5.9 万人であったが、平成 27 年（2015）には 20.0 万人に達し、この 5 年で約 3.4 倍に増加した。国籍・地域別では、台湾が最も多く（H27 年 67,658 人）、全体の約 33.8%を占めている。

図表 19 富山県内主要宿泊施設における外国人宿泊者数の推移



資料：富山県観光客入込数（推計）をもとに作成

(4) 富山県の観光ビジョン

富山県は平成 28 年（2016 年）3 月に「新・富山県観光振興戦略プラン」を策定し、日本版 DMO としての富山県観光連盟（現：公益社団法人とやま観光推進機構）の機能を強化し、戦略的な観光地域づくりを促進することとしている。同プランでは、目指す将来像として、訪日外国人旅行者が多く訪れる立山黒部などの山岳リゾートと「世界で最も美しい湾クラブ」加盟の富山湾があることから「海のあるスイス」を掲げている。

図表 20 「新・富山県観光振興戦略プラン」における「目指すべき方向と目標」

(1) 基本目標	「選ばれ続ける観光地 富山ー『海のあるスイス』を目指してー」
(2) 目指す将来像 (Vision)	○「海のあるスイス」世界遺産・世界水準の山岳リゾート+世界で最も美しい湾 ○「富山で休もう。」上質なライフスタイルのブランド
(3) 施策 (Mission)	○マーケティングに基づく観光地域・ブランドづくり ○質の重視と地域内経済循環の促進 ○世界水準に相応しい旅行者の受入体制整備

図表 21 「新・富山県観光振興戦略プラン」における「施策の方向と重点的に取り組むべき事項」

戦略的な観光地域づくり	① 戦略的な観光地域づくりの体制整備（日本版 DMO） ② グローバル化に対応した次世代の観光を担う人づくり ③ 地域の観光を支える人づくり ④ 旅行者の満足度を向上させる受入環境の整備・支援 ⑤ 観光産業と他産業の連携による域内経済循環の促進 ⑥ 観光の担い手としての事業者・県民の意識醸成
広域観光の拠点化	① 広域観光ハブ（交通結節点）としての優位性を活かした拠点整備 ② 主要駅・空港と観光地を結ぶ二次交通の整備・利便性向上 ③ 広域観光の拠点としての賑わい創出・魅力向上
富山らしい 魅力創出	① 世界水準の観光資源「世界遺産五箇山」「立山黒部」の高付加価値化 ② 世界で最も美しい富山湾の魅力を活かした観光資源の発掘・磨き上げ ③ 豊かな食の磨き上げ ④ 伝統文化、工芸品等上質な富山を提供する観光商品の開発 ⑤ 産業観光、ロケ地、スポーツ等多様なツーリズムの展開 ⑥ 冬季の魅力創出による通年観光の促進
戦略的なプロモーション	①「海のあるスイス」のイメージ醸成 ② ターゲットの特性に応じ、リピーターや定住をも意識した効果的な情報発信 ③ 交通事業者、大手旅行会社、近隣自治体等と連携したプロモーション ④ 映画等の誘致や多様なメディアの活用・連携
国際観光の推進	① 広域観光周遊ルートの形成促進 ② 外国人個人旅行者（FIT）の受入環境の整備 ③ 欧米豪など新規市場に向けた効果的な情報発信 ④ 東アジア・東南アジアからのリピーター拡大
コンベンションの誘致促進	① 国際会議の誘致強化 ② 本県の特色等を活かした戦略的なコンベンション誘致 ③ 主催者のニーズに配慮した支援制度の充実 ④ 富山の魅力を活かしたエコー・ニューやアフター・コンベンション等の提案

図表 22 「新・富山県観光振興戦略プラン」における「数値目標」

		平成 26 年（2014 年）	平成 31 年（2019 年）
観光による 経済波及の拡大	観光消費額	1,292 億円	2,067 億円
	コンベンション参加者数(※)	86,077 人	91,000 人
	コンベンション開催件数(※)	255 件	270 件
旅行者のリピーター化	旅行者の満足度	71%	80%以上
国内外から選ばれる 観光地	延べ宿泊者数	3,489 千人	5,200 千人以上
	外国人宿泊者数	20 万人(H27)	56 万人

(※は年度の数値、他は暦年の数値)

3 氷見市の観光動向

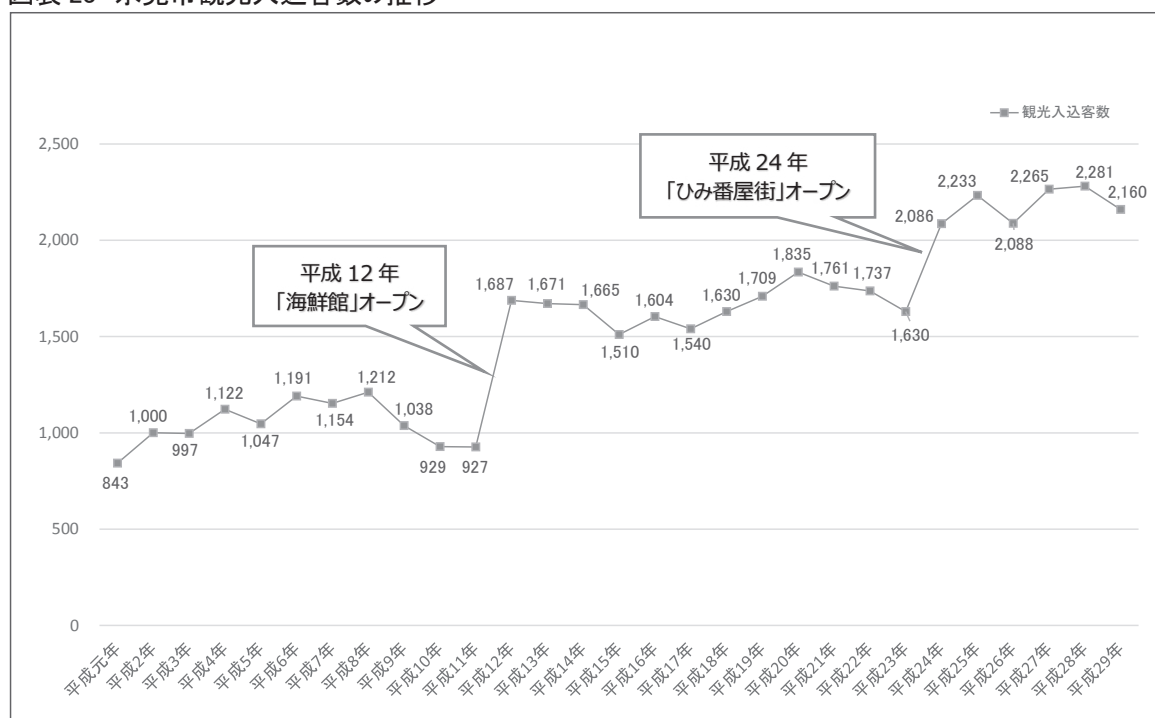
(1) 氷見市の観光入込客数の推移

統計を取り始めた平成元年（1989 年）に 843 千人だった本市の観光入込客数は、概ね増加で推移しているが、氷見市海浜植物園がオープンした平成 8 年（1996 年）に 1,212 千人となった後は、減少に転じ、平成 10 年（1998 年）には 100 万人を下回っている。

平成 12 年（2000 年）に氷見フィッシャーマンズワープ海鮮館がオープンすると、1,687 千人と大幅に増加（前年比 82%増）し、その後は横ばいで推移してきた。

平成 24 年（2012 年）にひみ番屋街がオープンすると、はじめて 200 万人の大台を超え、2,086 千人となった。北陸新幹線開業効果が顕著に現れた平成 27 年（2015 年）は 2,265 千人、平成 28 年（2016 年）は 2,281 千人と増加で推移した。反動減等の影響により平成 29 年（2017 年）は 2,160 千人に留まったものの、開業前の水準を上回る観光入込客数を維持している。

図表 23 氷見市観光入込客数の推移



（２）氷見市の主要観光施設の観光入込客数の推移

平成 24 年（2012 年）10 月にオープンした「ひみ番屋街」が市内で最も観光客を集客している施設であり、富山県の統計発表（平成 27 年）によると、富岩運河環水公園（約 138 万人）に次いで県内で 2 番目に観光入込客数が多い観光施設となっている。

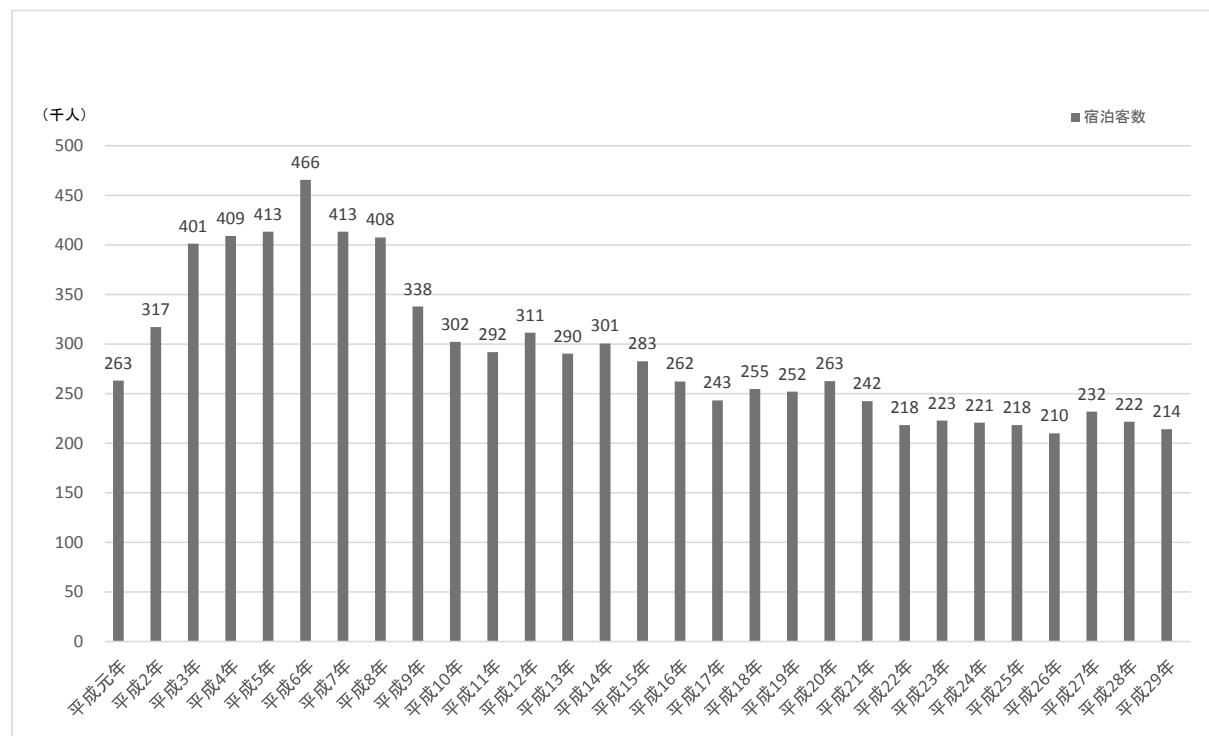
図表 24 主要観光施設の観光入込客数の推移

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
ひみ番屋街	1,250,000 人	1,147,500 人	1,239,200 人	1,238,700 人	1,184,000 人
氷見市海浜植物園	42,200 人	38,400 人	41,700 人	44,000 人	45,907 人
潮風ギャラリー	15,400 人	13,500 人	15,400 人	17,400 人	19,084 人

（３）氷見市の宿泊者数の推移

宿泊者数が最も多かった平成 6 年（1994 年）の宿泊者数は約 47 万人で、観光入込客数に占める宿泊客数の割合は約 4 割（観光入込客数約 119 万人のうち、宿泊者数は約 47 万人）を占めていた。平成 29 年（2017 年）の宿泊者数は約 21 万人と、ピーク時の半数以下に減少した。これは、観光客のニーズ変化（宿泊スタイルの変化）によるものと考えられる。

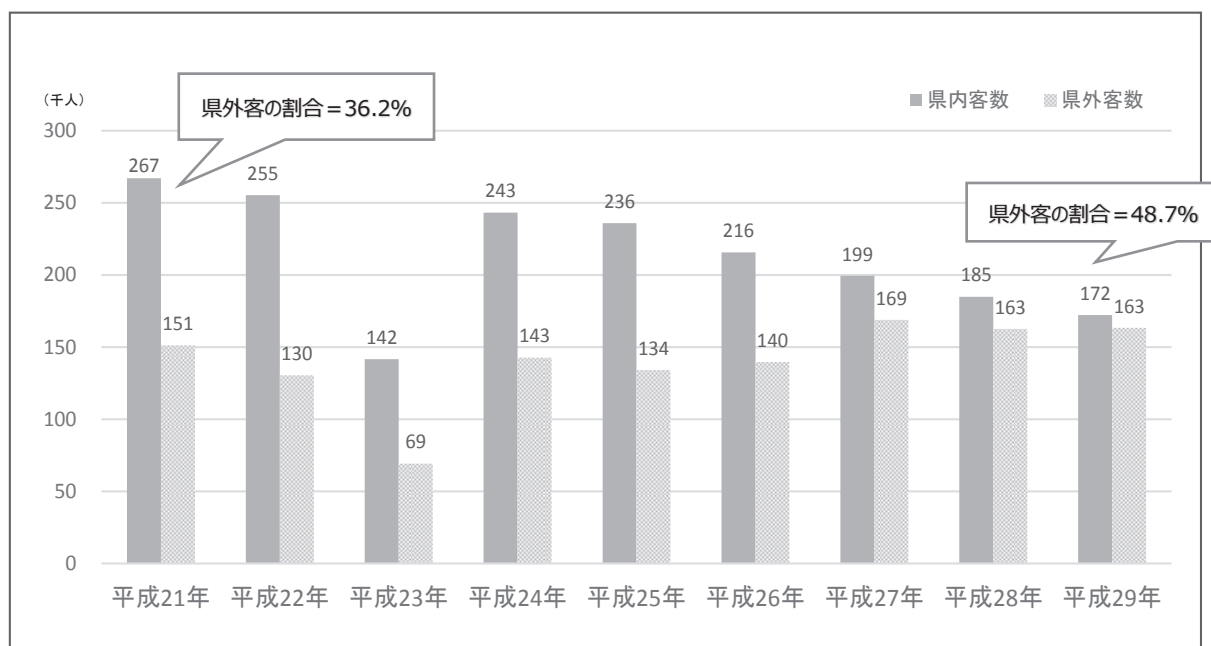
図表 25 氷見市宿泊者数の推移



(4) 県外客の増加

宿泊施設における入込数（日帰り客＋宿泊客）の内訳に着目すると、平成 21 年（2009 年）に 36.2%だった県外客の割合が、平成 29 年（2017 年）には 48.7%に増加していることがわかる。北陸新幹線の開業や能越自動車道の開通で、県外からの交通利便性が向上したことから、今後もこの傾向は続くと考えられる。

図表 26 氷見市宿泊施設における入込数の内訳



（５）北陸新幹線開業効果の比較

平成 27 年（2015 年）3 月に開業した北陸新幹線の影響を見るため、開業前後の観光入込客数の変化と宿泊客数の変化を周辺自治体と比較したところ、観光入込客数については、本市においては開業前に比べ約 1 割（10.4%）増となっており、金沢市の約 2 割（19.2%）増には及ばないものの、富山県平均（6.2%）を上回る増加であった。

宿泊者数の増加率については、新幹線新駅ができた宇奈月温泉は 26.8%増と効果が顕著であったが、富山県全体では 14.4%増、本市においては 10.4%増に留まっている。

図表 27 観光入込客数の変化

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	増加率 (H26→H27)
富山県	29,036 千人	30,826 千人	31,019 千人	6.2%
富山市	6,429 千人	6,549 千人	6,672 千人	1.9%
高岡市	3,485 千人	3,801 千人	3,741 千人	9.1%
氷見市	1,878 千人	2,074 千人	2,090 千人	10.4%
石川県	21,611 千人	25,018 千人	24,588 千人	15.8%
金沢市	8,442 千人	10,064 千人	—	19.2%

資料：「富山県観光入込数（推計）」「統計からみた石川県の観光」「金沢市統計データ集」をもとに作成
※「富山県観光入込数（推計）」は、入込数の公表が了承された観光地点・イベントのみ計上

図表 28 宿泊者数の変化

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	増加率 (H26→H27)
富山県	3,489 千人	3,991 千人	3,408 千人	14.4%
富山市	1,339 千人	1,462 千人	—	9.2%
高岡市	220 千人	250 千人	254 千人	13.4%
氷見市	210 千人	232 千人	222 千人	10.4%
石川市	7,543 千人	8,730 千人	8,696 千人	15.7%
金沢市	2,634 千人	3,436 千人	—	5.7%

資料：観光庁「宿泊旅行統計」、「富山市観光戦略プラン」「高岡市観光振興ビジョン」「金沢市統計データ集」をもとに作成

図表 29 周辺温泉地における宿泊者数の変化（参考）

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	増加率 (H26→H27)
和倉温泉	754 千人	895 千人	—	18.8%
宇奈月温泉	292 千人	370 千人	—	26.8%

資料：「平成 28 年度版七尾市統計書」をもとに作成 ※和倉温泉旅館協同組合加入分
「統計黒部（平成 28 年度版）」をもとに作成 ※宇奈月温泉利用状況（入湯客数）

※「—」は、現時点（平成 30 年 2 月）で統計データが未公表

（６）氷見市における訪日外国人旅行者（インバウンド）の動向

全国的に外国人宿泊者数が伸びるなか、（一社）氷見市観光協会が平成 27 年（2015 年）より外国人宿泊者数の調査を始めたところ、4,309 人であったものが、翌年の平成 28 年（2016 年）には 7,258 人（前年比 68.4%増）と大幅な伸びを見せた。平成 29 年（2017 年）は 9,370 人（前年比 29.1%増）と増加で推移している。その多くは台湾人の団体観光客で、大規模宿泊施設での受入れが中心と考えられる。

図表 30 氷見市における外国人宿泊者数

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
外国人宿泊者数	4,309 人	7,258 人	9,370 人
前年度比	—	68.4%増	29.1%増

資料：（一社）氷見市観光協会調査結果をもとに作成

関連情報① 台湾への官民合同の親善訪問団を派遣

平成 29 年（2017 年）8 月 23 日から 3 日間、氷見市長を団長とする台湾・氷見 観光文化 友好交流国際親善訪問団は、台湾の対日窓口機関である「台湾日本関係協会」を訪れ、観光・文化交流促進について会談を行った。また、（一社）氷見市観光協会は、本市への研修生を受け入れている台北城市科技大学を訪問し、同大学と「友好親善協定」を締結した。

また、トップセールスとして、訪日観光事業において実績を持つ大手旅行事業者（喜鴻旅行社有限公司）を訪問し、本市への旅行企画商品の開発を要請するなど、訪日外国人旅行者の誘致・受入への取組が本格的にスタートした。



（７）体験観光や教育旅行の受入実績

氷見市宿泊体験推進協議会では、学校等の宿泊体験の受入れを行っている。学校側の要望に合わせ、「魚釣り体験」、「かまぼこの絵付け体験」や「氷見沖クルージング」等の体験プログラムだけでなく、宿泊等と組合せた販売もしている。また、同協議会の事務局を担う（一社）氷見市観光協会は、平成 22 年（2010 年）に第三種旅行業に登録しており、県内でもいち早く募集型企画旅行（着地型）の商品造成、販売、受入れ等に力を入れてきた。

図表 31 募集型企画旅行の受入実績

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
42 人	95 人	263 人	1,035 人	955 人

図表 32 教育旅行の受入実績

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
5 校	7 校	5 校	6 校	7 校
286 人	448 人	434 人	446 人	785 人

（８）コンベンション（各種会議、大会、合宿、修学旅行等）の受入実績

本市では、コンベンション誘致の一環として、各種会議、大会、合宿、修学旅行等のコンベンションを開催する主催者を対象に「氷見市コンベンション事業推進補助金」を交付している。平成 27 年度（2015 年度）に、スポーツ合宿などの少人数団体への限度額を拡大したことにより、学校・団体の部活動等による利用が増加した。

平成 28 年度（2016 年度）の春の全国中学生ハンドボール選手権大会では、全国から 98 チームが参加し、選手・応援団等が市内に宿泊した。

図表 33 コンベンション補助金交付実績

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
622 人	463 人	1,455 人	2,661 人	1,703 人

【参考】氷見市コンベンション事業推進補助金制度

対象経費	補助金額	限度額
大会、会議、集会、研究会、スポーツ大会、合宿その他市長が認める事業	延べ宿泊者数が 50 人未満の場合、一人当たり一泊 500 円	50 万円
	延べ宿泊者数が 50 人以上の場合、一人当たり一泊 1,000 円	
修学旅行	一人当たり一泊 1,000 円	30 万円
	体験メニュー 1 つにつき、500 円を上限として一人当たりの費用の 1 / 2 を助成（ただし、2 回分 1,000 円が上限）	

4 氷見市への交通アクセスの変化

(1) 鉄道・自動車による交通アクセス

平成 27 年（2015 年）3 月 14 日、北陸新幹線の金沢―長野間が開業となった。これにより東京―氷見間の鉄道によるアクセス時間は最短 3 時間に短縮された。（将来的に北陸新幹線は福井、京都を經由し大阪まで延伸予定）

また、同年 2 月 28 日には能越自動車道七尾氷見道路が全線開通し、鉄道、自動車ともに本市へのアクセス利便性が向上した。

北陸新幹線開業に合わせ、新高岡駅から和倉温泉を結ぶバス定期便「わくライナー（毎日 4 便）」が運行を開始した。市内 3 箇所（ひみ番屋街、ひみ阿尾の浦温泉、岩井戸温泉）に停留所がある。



図表 34 氷見市への交通アクセス

	鉄道	自動車
東京から	【最短で約 3 時間】	【最短で約 5 時間半】
名古屋から	【最短で約 4 時間】	【最短で約 3 時間】
大阪から	【最短で約 4 時間】	【最短で約 4 時間】

（２）飛行機による交通アクセス

富山空港（愛称：富山きときと空港）は、本市から自動車で約 50 分のところに立地し、国内 2 路線（羽田、札幌）が運行している。羽田—富山便は、北陸新幹線開業初年には、その影響を受け、開業前に比べ利用者は約 4 割減少し、1 日 6 便体制から 1 日 4 便体制となった。羽田空港は国内各地、海外からの乗継ぎ利便性が高いことから、路線の維持・活性化が望まれている。

国際便については、平成 5 年（1993 年）にはじめて韓国ソウル便が就航して以来、現在は 4 路線（台湾、上海、大連、ソウル）が運行している。

また、本市から自動車で 1 時間強のところに立地する小松空港（石川県）は、富山空港同様に東アジア各都市と結ぶ国際線を有しており、北陸観光における東アジア圏からの空の玄関口となっている。



図表 35 国際線の運行状況（平成 29 年 7 月現在）

空港	国	都市名	運行	備考
富山空港	台湾	台北	週 4 便（月、木、金、日曜）	チャイナエアライン、JAL
	中国	上海	週 2 便（火・土曜）	中国東方航空
		大連	週 2 便（水・土曜）	中国東方航空
	韓国	ソウル	週 3 便（月、水、土曜）	エアソウル
小松空港	台湾	台北	週 5 便（月・火・水・金・土曜）	エバー航空と ANA の共同運航
	中国	上海	週 4 便（月・木・金・日曜）	中国東方航空と JAL の共同運航
	韓国	ソウル	週 3 便（水・金・日曜）	大韓航空と JAL の共同運航

資料：富山空港・小松空港の公式 HP をもとに作成

図表 36 国内線の運行状況（平成 29 年 7 月現在）

空港	都市名	運行	備考
富山空港	東京都（羽田）	毎日 4 便	ANA
	北海道（札幌千歳）	毎日 1 便	ANA
小松空港	東京都（羽田）	毎日 10 便	JAL、ANA
	千葉県（成田）	毎日 1 便	IBX と ANA の共同運航
	北海道（札幌千歳）	毎日 1 便	ANA
	宮城県（仙台）	毎日 2 便	IBX と ANA の共同運航
	福岡県（福岡）	毎日 4 便	IBX と ANA の共同運航、ANA
	沖縄県（那覇）	毎日 1 便	JTA

資料：富山空港・小松空港の公式 HP をもとに作成

5 氷見市の観光資源

(1) 自然資源

本市は、能登半島の基部に位置し、東は富山湾に面し、南西北の三方を山に囲まれている。市の北から西にかけては宝達丘陵（石動山、碁石ヶ峰、臼が峰）が連なり、石川県との境界を形成している。市の東側に緩やかに弧を描きながら長く伸びる約 20km の海岸線一体は、能登半島国定公園に指定されており、白砂青松の松田江の長浜から断崖の連なる灘浦海岸まで、変化に富んだ海岸美を有する。晴れた条件の良い日には、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している富山湾に浮かぶようにそびえる立山連峰の雄大なパノラマを望むことができる。

市北部の沖合海上にある「虻が島」は富山県最大の島で、寒暖両性の植物が混生している。市内には、樹齢 1000 年といわれる上日寺の大イチョウ（雌株としては日本一の太い巨樹）をはじめ、巨樹や社叢（鎮守の杜）が多く残る。また、市の丘陵部からは川が放射状に富山湾に注いでおり、日本固有の淡水魚のイタセンパラ生息地や十二町潟オニバス発生地のような「国指定天然記念物」などの希少生物が数多く生息している。



松田江の長浜



虻が島



十二町潟オニバス発生地



上日寺の大イチョウ

（２）人文資源

温暖な気候で、豊かな海の幸、山の幸に恵まれた本市は、有史以前から生活が営まれていたことが、国指定史跡の大境洞窟住居跡、朝日貝塚などの住居跡や出土品からもうかがえる。平成 10 年（1998 年）に発見された柳田布尾山古墳は、古墳時代のもので前方後方墳では日本海側最大である。奈良時代には、越中国守の相伴家持がたびたび訪れ詠んだ歌が数多く万葉集に残る。

本市は、能登と越中の境にあり、能登半島の戦略上重要な地域であったことから、多くの山城（森寺城、阿尾城等）が築かれている。戦国時代になると、土豪たちが築いた山城は越後の上杉勢と能登の畠山勢との戦場となったり、その後、佐々成政勢と加賀の前田利家勢との戦いが繰り返された。やがて、江戸時代になると加賀藩政のもと、市街地には商家が軒を並べるようになった。また、江戸時代の初め頃から、定置網漁や地引網漁が営まれており、漁村の生活文化が色濃く残る。多種多様な漁撈用具は、平成 27 年（2015 年）には、「氷見及び周辺地域の漁撈用具」として国の登録有形文化財に指定されている。

また「獅子舞の里」とも言われ、数多くの獅子舞が伝承されており、市内 100 近い地域で獅子舞が演じられている。獅子舞の展示・実演・体験ができる「ひみ獅子舞ミュージアム」がある。

近代以降には、「京浜工業地帯の父」と呼ばれる浅野総一郎が登場し、その出身地であることから、「浅野総一郎 九転十起の像」などがある。また「忍者ハットリくん」や「怪物くん」などの作者である藤子不二雄[㊤]先生の出身地でもあり、市内中心部の商店街には「訪れてみたい日本のアニメ聖地 88」に選定された「氷見市潮風ギャラリー（藤子不二雄[㊤]アートコレクション）」が整備されているほか、キャラクターのモニュメント等を見ることができる。



大境洞窟住居跡



道神社拝殿



ひみ獅子舞ミュージアム



光久寺の茶庭

(3) その他資源

平成 24 年（2012 年）9 月に「氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館」が閉館したことをうけ、同年 10 月にオープンしたのが「氷見漁港場外市場 ひみ番屋街」である。年間約 120 万人が訪れる人気の観光商業施設となっており、隣接して氷見温泉郷「総湯」もある。

また、旧海鮮館の跡地には、平成 27 年（2015 年）に「ひみ漁業交流館 魚々座」がオープンし、現在は名称を「氷見漁業文化交流センター」に改めている。市では、氷見沖で 400 年続く伝統の越中式定置網漁を中心とした田園漁村の世界農業遺産認定を目指しており、その発信基地としての整備が検討されている。



氷見漁港場外市場 ひみ番屋街



氷見漁業文化交流センター

関連情報② 「世界で最も美しい湾クラブ」とは？

「世界で最も美しい湾クラブ」は、湾を活用した観光振興と資源の保全を活動目的として、1997 年に設立したユネスコが支援する非政府組織。世界遺産のフランスのモンサンミッシェル湾、ベトナムのハロン湾など、24 カ国 1 地域が加盟している。富山湾は、平成 26 年（2014 年）10 月に加盟した。平成 30 年（2018 年）秋には富山県で総会が開催される予定だ。



出所：The MOST BEAUTIFUL BAYS 公式 HP



出所：美しい富山湾クラブ公式 HP

図表 37 観光資源一覧(1/2)

No	資源名	大分類	小分類	掲載				備考
				氷見トラベルマップ	氷見の文化財	氷見の街散策マップ	タウンマップ	
1	島尾海水浴場	自然資源	海岸	●		●	●	※快水浴場百選（キャンプ場有）
2	小境海水浴場	自然資源	海岸	●				
3	能登半島国定公園	自然資源	海岸		●			
4	小境海岸CCZ	自然資源	海岸			●	●	
5	唐島	自然資源	島		●			※県指定名勝
6	虹が島とその周辺	自然資源	島		●			※県指定名勝・天然記念物
7	飯久保の瓢箪石	自然資源	岩石・洞窟		●			※国指定天然記念物
8	臼が峰	自然資源	山岳		●			※市指定名勝
9	長寿が滝	自然資源	滝	●				
10	上日寺のイチョウ	自然資源	植物	●	●	●	●	※国指定天然記念物
11	余川古寺の桜	自然資源	植物	●	●		●	※市指定天然記念物
12	熊無千本椿	自然資源	植物	●				
13	老谷の大つばき	自然資源	植物	●	●		●	※県指定名勝
14	上久津呂のツバキ・キクザクラ	自然資源	植物	●	●		●	※市指定天然記念物
15	駒つなぎ桜	自然資源	植物	●	●		●	※県指定名勝
16	十二町湯オニバス発生地	自然資源	植物		●			※国指定天然記念物
17	長坂の大いぬくす	自然資源	植物		●		●	※県指定天然記念物
18	五柱社の大杉	自然資源	植物		●			※市指定天然記念物
19	上田子諏訪の大杉	自然資源	植物		●			※市指定天然記念物
20	イタセンバラ	自然資源	動物		●			※国指定天然記念物
21	イタセンバラ保護池	自然資源	動物		●			
22	大境洞窟住居跡	人文資源	史跡	●	●	●	●	※国指定史跡
23	阿尾城跡	人文資源	史跡	●	●	●	●	※県指定史跡
24	森寺城跡	人文資源	史跡	●	●			※市指定史跡
25	朝日貝塚	人文資源	史跡	●	●			※国指定史跡
26	布勢の円山	人文資源	史跡	●	●		●	※市指定名勝
27	柳田布尾山古墳	人文資源	史跡	●	●	●	●	※国指定史跡
28	髪塚	人文資源	史跡		●			※市指定史跡
29	坪池の宝篋印塔	人文資源	史跡		●			※市指定工芸品
30	伝小窪廃寺塔心礎石	人文資源	史跡		●			※市指定天然記念物
31	加納横穴群	人文資源	史跡		●			※市指定史跡
32	道神社拝殿 附棟札2枚	人文資源	社寺	●	●		●	※県指定建造物
33	朝日社叢	人文資源	社寺	●	●	●		※県指定天然記念物
34	礪部神社社叢	人文資源	社寺	●	●		●	※市指定天然記念物
35	垂姫神社	人文資源	社寺	●				
36	布勢神社	人文資源	社寺	●				
37	藤波神社社叢	人文資源	社寺	●	●		●	※市指定名勝
38	千手寺	人文資源	社寺			●		
39	光照寺	人文資源	社寺			●		
40	石動山道（大窪道）	人文資源	古道・遊歩道		●			※文化庁認定「歴史の道百選」（平成8年）
41	臼が峰往来（御上使往来）	人文資源	古道・遊歩道		●			※文化庁認定「歴史の道百選」（平成8年）
42	九殿浜遊歩道	人文資源	古道・遊歩道			●		
43	御座町曳山会館	人文資源	博物館・美術館			●	●	
44	浅野総一郎翁資料展示館	人文資源	博物館・美術館				●	
45	ひみ獅子舞ミュージアム	人文資源	博物館・美術館	●		●	●	
46	氷見市潮風ギャラリー	人文資源	博物館・美術館	●		●	●	※氷見市 藤子不二雄(A)まんがワールド
47	氷見市立博物館	人文資源	博物館・美術館	●	●	●	●	
48	氷見市文化財センター	人文資源	博物館・美術館		●			※旧女良小学校
49	氷見市海浜植物園	人文資源	植物園・水族館	●		●	●	
50	ひみラボ水族館	人文資源	植物園・水族館	●	●		●	
51	氷見あいやまガーデン	人文資源	庭園・公園	●		●	●	
52	朝日山公園	人文資源	庭園・公園	●		●	●	
53	天狗林健康広場	人文資源	庭園・公園	●				
54	臼が峰園地	人文資源	庭園・公園	●				
55	十二町湯水郷公園	人文資源	庭園・公園	●		●		※ハクチョウの越冬地としても知られる
56	光久寺の茶庭	人文資源	庭園・公園	●	●	●	●	※県指定名勝
57	氷見運動公園	人文資源	庭園・公園	●				
58	九殿浜園地	人文資源	庭園・公園				●	
59	氷見運動公園パークゴルフ場	人文資源	庭園・公園				●	
60	中央町ポケットパーク	人文資源	庭園・公園				●	

図表 38 観光資源一覧(2/2)

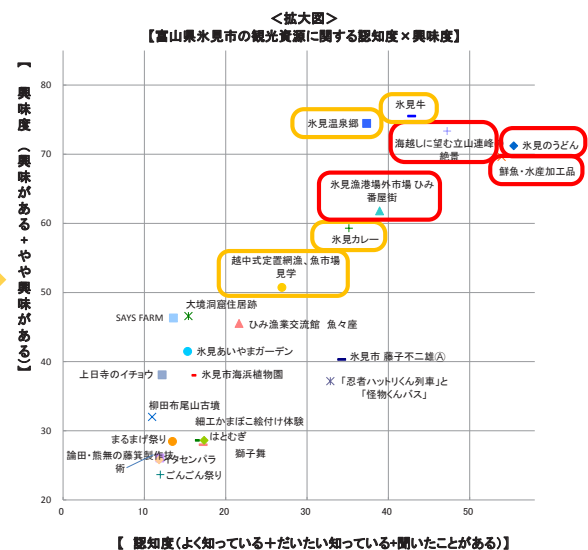
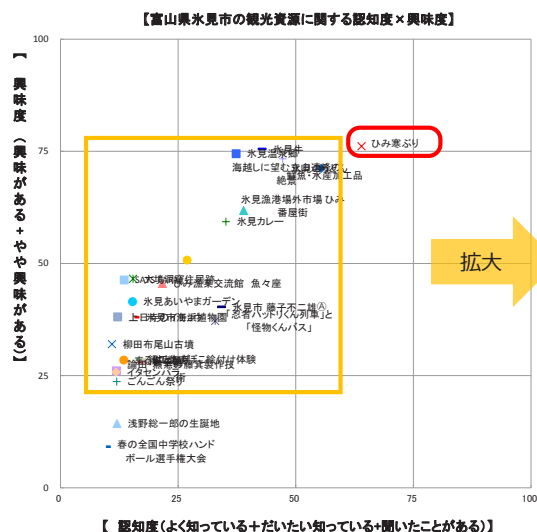
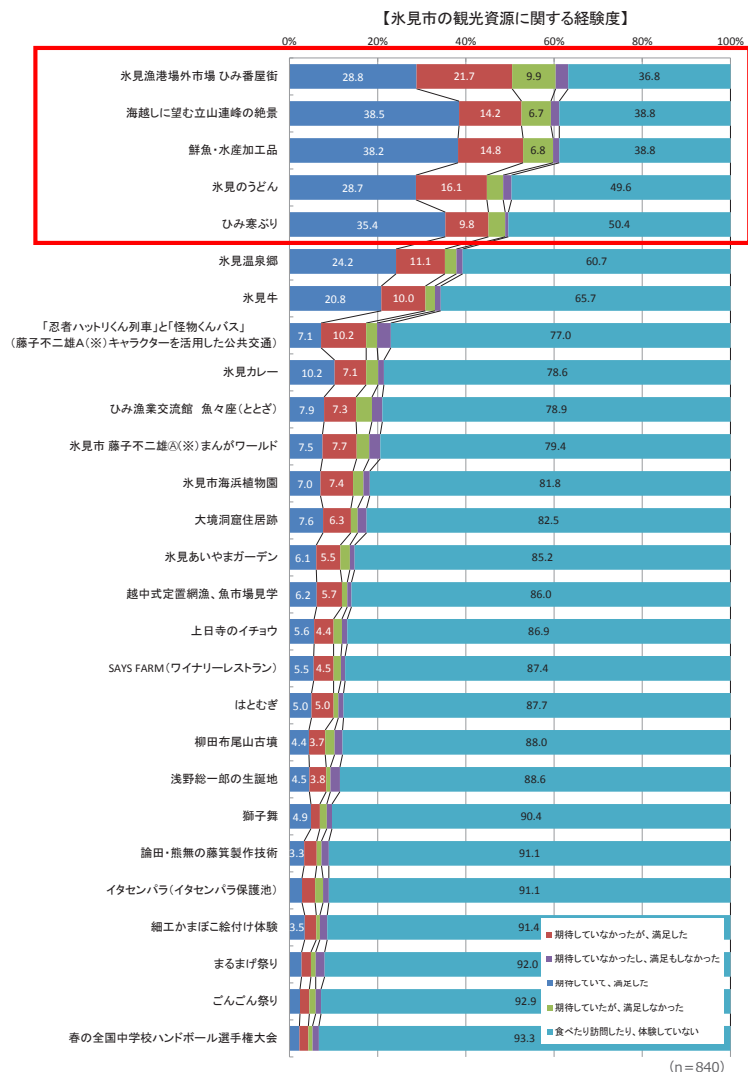
No	資源名	大分類	小分類	掲載				備考
				氷見トラベルマップ	氷見の文化財	氷見の街散策マップ	タウンマップ	
61	忍者ハットリくんカラクリ時計	人文資源	現代建造物	●		●		※氷見市 藤子不二雄(A)まんがワールド
62	比美乃江大橋	人文資源	現代建造物	●			●	
63	復興橋	人文資源	現代建造物			●		
64	展望台	人文資源	現代建造物			●		※比美乃江公園内
65	漁火ロード	人文資源	現代建造物	●		●		
66	浅野総一郎 九転十起の像	人文資源	像・モニュメント	●			●	
67	忍者ハットリくんポスト	人文資源	像・モニュメント			●		
68	藤子(A)キャラクターの石像	人文資源	像・モニュメント				●	
69	サカナ紳士録モニュメント	人文資源	像・モニュメント				●	
70	喪黒福造像	人文資源	像・モニュメント				●	
71	忍者ハットリくん巨大壁画	人文資源	像・モニュメント				●	
72	垂姫伝説	人文資源	像・モニュメント	●				
73	海越しの立山連峰	人文資源	地域景観	●				※「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟(平成26年)
74	長坂の棚田	人文資源	地域景観	●			●	※日本の棚田百選
75	氷見漁港	人文資源	地域景観			●		
76	論田・熊無の藤箕製造技術	人文資源	彫刻・工芸品		●			※国指定重要無形民俗文化財
77	木造千手観音菩薩立像	人文資源	彫刻・工芸品		●			※県指定彫刻(千手寺)
78	太刀 銘 宇多国光	人文資源	彫刻・工芸品		●			※県指定工芸品(鞍川ノ個人蔵)
79	蓮乗寺の梵鐘	人文資源	彫刻・工芸品		●			※市指定工芸品
80	氷見及び周辺地域の漁撈用具	人文資源	民俗文化財		●			※国指定登録有形民俗文化財
81	ごんごん祭り	人文資源	年中行事	●		●	●	
82	まるまげ祭り	人文資源	年中行事	●		●	●	
83	祇園祭り	人文資源	年中行事			●		
84	氷見市漁業文化交流センター	その他資源	観光交流施設	●		●	●	※旧ひみ漁業交流館 魚々座
85	ふれあいスポーツセンター	その他資源	観光交流施設	●			●	
86	まちなかサロンひみ	その他資源	観光交流施設			●		
87	氷見漁港場外市場 ひみ番屋街	その他資源	観光商業施設	●		●	●	
88	まんがロード	その他資源	観光商業施設			●		※氷見市 藤子不二雄(A)まんがワールド
89	氷見カントリークラブ	その他資源	観光商業施設	●			●	
90	SAYS FARM	その他資源	観光商業施設	●		●		
91	工房舎 閑雲	その他資源	観光商業施設	●			●	
92	いなかふれさかブルーベリー	その他資源	観光商業施設	●			●	
93	氷見キネマ	その他資源	観光商業施設			●	●	※休館中
94	氷見昭和館	その他資源	観光商業施設				●	
95	濱元家	その他資源	観光商業施設				●	
96	ハッピータウン	その他資源	観光商業施設				●	
97	氷見温泉郷	その他資源	温泉	●				
98	氷見温泉郷 総湯	その他資源	温泉				●	
99	べるもんた	その他資源	交通機関			●		
100	忍者ハットリくん列車	その他資源	交通機関			●		

関連情報③ 氷見市観光資源における観光客の「経験度」「認知度」「興味度」とは？

平成 27 年（2015 年）に実施したアンケート調査によると、「経験度」が高い観光資源は、「ひみ番屋街」「海越しの立山連峰」「鮮魚・水産加工品」「氷見のうどん」「ひみ寒ぶり」の 5 つであった。

一方、「認知度×興味度」を見ると、経験度の高い上記の観光資源は興味度も高いことがわかる。それ以外の観光資源では「氷見牛」「氷見温泉郷」「氷見カレー」「越中式定置網漁、魚市場見学」の興味度が高い。

これら 4 コンテンツは「認知度」は低い、「興味度」が高いお宝（潜在力のある観光資源）である。今後これらの認知度向上を強化することで、回遊の促進、観光消費額の向上につながりやすいと考えられる。



資料：じゃらんリサーチセンター「氷見市GAP調査報告書」

(4) 祭りや年中行事

四季を通じて祭りや年中行事が数多く残っており、春祭りや秋祭りでは地区ごとに獅子舞が出される。また、夏に開催される「ひみまつり」や秋に開催される「ひみ食彩まつり」なども季節のイベントとして定着している。

図表 39 三大祭礼

	時期	場所	内容
祇園祭り	7月13日、14日 (毎年同日)	中の橋、日吉神社、 日宮神社	華麗な曳山がくり出す最大の祭。市内中心部を神輿と太鼓台が巡行
唐島祭	5月3日 (毎年同日)	光禅寺から氷見市漁業文化交流館	氷見の三大祭礼のひとつ。唐島は氷見漁港の東300mの海上にある島
ごんごん祭り	4月17日、18日 (毎年同日)	上日寺	雨ごいの満願成就を祝う奇祭。力自慢の若者たちが丸太で釣鐘を連打する

図表 40 年中行事

1月	正月、七草がゆ、鏡開き、さぎちょう、小正月	7月	七夕、祇園祭り
2月	二月正月、豆まき、きしゅう祭	8月	お盆、おんぞはん祭り、おすわ祭り
3月	ひな祭り、おしゃかだんご、彼岸	9月	彼岸、秋祭り
4月	まるまげ祭り、春祭り、ごんごん祭り	10月	かき天神
5月	唐島祭、端午の節句、こうらうらの祭り、田祭り	11月	七五三、恵比寿講
6月	いりがしぼん、金比羅祭り、虫送り、胎内ぐり	12月	はりせんぼ、大晦日



祇園祭り



獅子舞



ごんごん祭り



まるまげ祭り

(5) 特産品

特産品としてよく知られているのは「ひみ寒ぶり」に代表される富山湾の海の幸をはじめ、「氷見牛」「氷見のうどん」「はとむぎ茶」である。富山湾では、ブリだけでなく、イワシやクロマグロなど約 300 種の魚が捕れ、「ナガラモ（アカモク）」等の海藻も注目を集めている。里山では、季節ごとに様々な農産物が収穫できる。市内の民宿、割烹、寿司店などでは、実行委員会を組織し、これらの食材を盛り込んだ期間限定のメニュー「氷見三昧」を提供している。また、食材だけでなく、生活の中で培われた伝統食（かぶら寿しや昆布締め等）や水産加工品（カマボコ、みりん干し等）、地酒（日本酒、ワイン等）が土産としても人気であり、工芸品では、「竹細工」「藤簀」が知られている。

図表 41 氷見漁港で捕れる旬の魚

春 3～5月	夏 6～8月	秋 9～11月	冬 12～2月
サヨリ マイワシ ヒラメ サバ マダコ クロダイ	トビウオ マダイ クロマグロ マアジ ガザミ タチウオ	キジハタ シイラ カマス カツオ クルマエビ アオリイカ	ブリ スルメイカ ヤリイカ アンコウ マダラ ウマズラハギ

図表 42 氷見の農産品の例

季節	春			夏			秋			冬		
月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
稲積梅												
自然薯												
りんご												
白ねぎ												
栗原筍・田子筍												
ブルーベリー												
マコモダケ												
灘浦みかん												

関連情報④ 氷見に根付く寒ブリ文化

氷見の越中式定置網漁は 400 年以上の歴史があり、そこで捕れる寒ブリは、古来より時の権力者や高貴な人々への献上される高級品であった。今でも、娘が嫁いだ年には、嫁ぎ先へのお歳暮に寒ブリを丸々一本贈る「嫁ぶり」という習慣がある。氷見の人にとっては、大切な特産物であると同時に、生活文化でもある。



(6) 体験プログラム

氷見市宿泊体験推進協議会では、現在、12 の体験プログラムを展開している。

下の図表がその詳細であるが氷見沖クルージング以外は事前予約制である。定員も様々で、団体だけでなく、個人での申込みも受け付けている。

図表 43 体験プログラム

	料金	定員	所要時間	備考
ブルーベリージャム作り体験	1,500 円	20 名	約 20 分	実施時期は 5～9 月
回遊式庭園とお抹茶体験	600 円	—	30～60 分	実施時期は 4～11 月
ボランティアガイドとまちなか体験	1,000 円	15 名	※コースによる	料金はガイド 1 人あたり
どぶろく「仁助どん」製造体験	13,000 円	20 名	約 30 分	料金は 1 泊 2 食付
氷見いちご収穫体験	1,500 円	—	約 30 分	実施時期は 1～5 月
氷見りんご収穫体験	1,000 円	—	約 30 分	実施時期は 10～11 月
マコモタケ収穫体験	1,000 円	—	約 30 分	実施時期は 9～10 月
細工かまぼこ絵付け体験	1,000 円	—	約 30 分	宿泊料金別途
干物作り体験	1,500 円	15 名	30～60 分	平日のみ開催
地引き網体験	55,000 円	150 名	約 60 分	料金は一網貸切の場合
氷見沖クルージング	1,000 円	50 名	約 25 分	料金は小学生 500 円
定置網漁見学	40,000 円	50 名	約 90 分	料金は一艘貸切 実施時期は 5～11 月

※最小催行人員はプログラムにより異なる

図表 44 体験プログラムの受入実績

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
細工かまぼこ絵付け体験	130 人	283 人	150 人	433 人	338 人
干物作り体験	85 人	20 人	16 人	15 人	112 人
地引き網体験	141 人	41 人	35 人	261 人	254 人
氷見沖クルージング	105 人	234 人	20 人	309 人	203 人
魚釣り体験	251 人	143 人	141 人	209 人	205 人